（様式１）

学力向上のための重点プラン

新宿区立落合第四小学校

■　学校の共通目標

授業作り	重点	・ＩＣＴを活用した学習活動の充実と、教科のねらいに沿ったプログラミング教育を取り入れることにより、児童が主体的に学び共に高め合う授業を実践する。	中間評価	・日常的にＩＣＴ機器を活用し主体的・対話的に学ぶ授業を実践するとともに、プログラミングの年間指導計画を作成し、各教科でプログラミング的思考を育む授業に取り組んでいる。	最終評価	・ICT 機器やタブレットを日常的にどの教科でも積極的に活用し、児童の主体的な学びに生かすことができた。 ・昨年度に引き続き、校内研究を中心として各教科のねらいに沿ったプログラミング的思考を育む授業作りに取り組んだ。次年度からの本格実施に向けて低中高それぞれの実践を積み重ねることができた。
環境作り		・活動の流れを示し学習に見通しをもたせることで、主体的な学習ができるようにする。また、教室前面の掲示物の内容や量に配慮し、刺激量を調整する。		・昨年度に引き続き、教室前面の掲示や活動の流れを示した掲示を工夫し、児童が集中して学習に取り組めるよう取り組んでいる。		・活動の流れを示した掲示物の工夫により、児童が学習に見通しをもち、主体的に学習に取り組む姿が見られた。今後も校内で確認をしながら環境を整えていく。

■　学年の取組み内容

学年	教科	学習状況の分析（10 月）	課　題（10 月）	改善のための取組（10 月）	最終評価（２月）
1	国語	・「話す・聞く」では相手を意識してできるようにする。 ・「書くこと」ではくっつきの「つ」や文末の「。」が定着していない児童がいる。 ・ひらがなとかたかな・漢字の学習をしている。	・相手や場を意識した話し方や聞き方をすることが難しい。 ・くっつきの「つ」や文末の「。」が定着していない児童がいる。 ・ひらがなとかたかなを混同して使用している児童が多い。	・声の大きさや速さなどを工夫して話すために、スピーチ活動等を取り入れる。 ・文章を読み返す習慣をつける。 ・身近な言葉でイメージをもち、正しく使えるようにする。	・日直のスピーチやグループで活動を通し、相手に伝わる話し方や質問の仕方を練習してきた。話す速度、声の大きさなどを考えて話すことができるようになった。また、質問をするためにもしっかりと話を聞こうとする児童が増えてきた。しかし聞き方に課題のある児童もいるので、今後個別的な指導が必要である。 ・自分が書いた文章を読み返すとともに、友達と読み合うことも取り入れた。文末に「。」を付けることは習慣化してきたが、くっつきの「つ」は話し言葉と各言葉が連動していない児童が多い。 ・片仮名言葉を正しく遣える児童が増えてきたが、まだ十分に活用できない児童も多い。引き続き指導を続けていく。
	算数	・アナログ時計の読み取りに慣れていない。 ・１０の合成分解や計算問題に取り組んでいる。	・アナログ時計をよめない。 ・繰り上がりのある計算問題は正確に解ける児童が多いが、文章問題は誤答が目立つ。	・時計を見る習慣をつける。 ・問題文を落ち着いて読む習慣をつける。	・登下校や活動時に時計を見て確認してきた。アナログ時計に対する違和感が解消され、読み取れるようになった。 ・分かっていること、聞かれていることアンダーラインを引くなど、大切なことを意識しながら読むように指導しながら、授業や家庭学習で課題に取り組んだ。読み間違いをする児童が減った。

学年	教科	学習状況の分析（４月）	課　題（４月）	改善のための取組（４月）	中間評価・追加する取組（10 月）	最終評価（２月）
2	国語	・「話す・聞く」の学習では、話す体験をさらに積み重ねたい。 ・「書くこと」では、伝えたいこととその理由をわかりやすい文章で表せるようにする。	・全体の前での発表に自信がなく、言いたいことが十分に伝えられない児童もいる。 ・「書くこと」では、くっつきの「つ」や文末の「。」やカギかっこが定着していない児童もいる。 ・習った漢字の活用が不十分である。	・ペアやグループでの話し合いや発表の経験を積み重ねることにより、全体の前での発表に自信を持たせる。 ・文を書いた後には、自分で読み返したり、友達同士で読み返したりするようにする。 ・文章表現では、習った漢字は使うようにする。	・ペアやグループでの話し合い活動を取り入れたことにより、発表することへの抵抗感が減り、自信をもって発表しようとする児童が増えてきた。 ・書いた後に読み返すことの大切さを理解できるようになってきた。今後さらに定着できるように、文章を書いた後の読み返しを指導していく。 ・習った漢字を書くように指導をしているが、漢字を使う必要性を感じていない児童が一定数いる。漢字に対する意識を学年全体で高めるとともに、習った漢字を使って文章を書く指導を継続することが必要である。	・ペアやグループでの話し合い活動を取り入れることにより、一斉の場での発表は自信がない児童も、少人数の場では自分の考えを言える場面が増えた。 ・文章を書いた後に読み返すことは声がけをされればできるが、習慣化されていない児童が多いので課題である。自分で誤字脱字等に気付くことができるようにしていく。 ・習った漢字を普段の文章の中に活用できていない児童もいる。片仮名、漢字を使わずに平仮名中心の文章を書く児童もいるため、今後も既習の漢字の反復での確認が必要である。
	算数	・繰り上がり、繰り下がりの計算については、引き続き具体物を使用しながら指導していく。 ・大きい数の足し算引き算については、習熟が必要である。 ・時計については、5 分刻みの目盛だけでは、十分に読み取れない児童もいるので、習熟が必要である。	・一桁同士のたし算、ひき算が定着していない児童がいる。 ・位取りが不十分な児童がいる。 ・大半の児童は時計を読むことができるが、定着していない児童もいる。	・計算カードを活用して、繰り返し取り組ませる。 ・位取りを意識して筆算に取り組ませていく。 ・日常生活の中でも繰り返し時計を意識させるようにし、何時何分であるかを頻回で取り上げるようにする。	・練習をしても、まだ一桁同士のたし算、ひき算が定着していない児童がいる。数の合成に対して意識をさせながら、引き続き計算カードを活用して計算の仕方や考え方を身に付ける。 ・位取りを意識させて筆算に取り組ませたところ、たし算・引き算の筆算の仕方に関して、理解・定着した児童が増えた。今後も継続して指導を行う。 ・模型の時計を用いて時刻や時間の読み方を練習したが、まだ理解不十分な児童がいる。日常生活や授業でも取り上げ、時刻や時間に関しての定着を図る。	・一桁同士のたし算、ひき算については少しずつ定着してきている。２学期に学習したかけ算については、九九マス計算等で反復練習をしているが、身に付いていない児童もいるため、今後も算数の授業の最初や最後に時間を確保して反復練習をしていく。 ・時計の読み取りや、長さの読み取り（㎜　㎝　ｍ）、日常生活（他教科の学習活動場面、校外学習場面）でも取り上げるようにして、量感を養っていく。

３	国語	調・「書くこと」では、はじめ、中、終わりの型を使って書けるように、日常的な作文を通した練習をしていく。 学・「話す・聞く」では、他の人の話の聞き方を指導する。	・「書くこと」に対して楽しいと感じている児童と苦手意識のある児童の差が大きい。また、書く分量や速さにおいても個人差が大きい。 ・国語科だけでなく日常の生活でも「聞く」ことに課題がある。話の内容や中心に気を付けて聞くための基本的な態度（黙って、相手の顔を見て聞く等）を徹底する必要がある。「話す」ことについては話すこと自体は好きな児童が多い。しかし、声の大きさや話すスピードなど相手を意識した話し方をする児童は少ない。	・自主勉強ノートなどを活用し「日記」「もしも日記」など楽しんで文章が書けるような活動を取り入れる。書いたものを読み合い，よいところを見付けて感想を伝え合う活動を通して書くこと自信がもてるようにしていく。 ・日常から「話を聞く態度」を徹底させる。その後、話し手の内容の中心は何かに気を付けて聞けるようにする。また「聞き書き」の活動（明日の予定を連絡帳に書く等）など、集中して話を聞く活動を適宜取り入れる。 ・小グループ内スピーチ、学級でのスピーチ、また他教科での発表する活動などを意図的に設定し相手を意識した「話す活動」を指導する。	・自主学習ノートには「日記」「もしも日記」を書いている児童もいる。しかし児童全員に書く機会はまだきちんと設けていないので「日記週間」など設定し全員が日記などを書き、内容を交流し楽しんで文章を書く場を設定する。 ・「話を聞く態度」の徹底の成果が出てきている。静かに相手の方を向いて話を聞く児童の７５％程度はできている。今後も引き続き指導していくとともに、話の内容を理解して聞けるように日々の学校生活で指導していく。 ・常に「話す活動、対話する活動」を意図的に授業に取り入れて指導している。児童も自分達で話し合いを進められるようになってきているので、今後も引き続き指導し友達の考えを生かし自分の考えを深められるように指導する。	・「楽しんで書く」ことを最優先した結果、書くことへの抵抗感は少なくなった。国語の「物語をつくろう」では自分の書いた物語を友達と読み合って感想交流することにより自分の作品に自信をもつことができた。今後は自由作文だけでなく説明的文章や報告する文章にも進んで書けるようにしていく必要がある。 ・「聞く」ことに関しては日常から「話を聞く態度」の徹底をした結果８０％の児童は静かに相手の方を向いて話を聞くことができるようになった。一方、話の内容を理解し自分なりに考えをもつことに関してはもう一歩踏み込んで指導することが必要であった。 ・全ての授業、教育活動に置いて「話す活動・対話する活動」を意図的に取り入れた。すでに当たり前の活動と児童も捉えスムーズに対話しながら自分の考えを深められるようになってきた。
	算数	学・既習事項を活用して考えることを継続して指導する。 調・問題演習の機会を増やし、文章題への苦手意識を減らす。	・算数が好きな児童が多く楽しんで学習に取り組む児童がいる一方極端に苦手意識のある児童もいる。 ・文章題においては苦手意識が高い。	・習熟度別少人数指導を十分に活用し苦手意識のある児童、に対して個別に丁寧にスモールステップで指導する。 ・授業の初めに前時までに学習した内容を振り返る時間をとる。また、既習事項を活用すれば未習内容であっても自力で解決できる経験を積ませ、課題を自分で解決できる喜びを味わわせていく。 ・文章題において何を問われているのか、何を求めるのかを読み取る指導を徹底する。また、図や線分図などが問題を解くために有効であることを指導し、苦手意識を払拭できるように指導する。	・学習中、教室内を回り、友達とノートを見せ合いながら考えを説明したり、友達の考えの良いところを探したりした。習熟度問わず、常に児童同士が学び合うことの大切さを指導している。 ・前時との学習のつながりを意識させるために、既習内容を確認させたり、考えを説明し合ったりすることによって課題を解決することの楽しさを味わわせていく。 ・文章題において問題の内容を正確に捉えさせたうえで、課題解決までの手だてをペアやグループで協働的に考えられるように指導する。	・復習問題などを友達と一緒に見せ合いながら解くことにより、共に学習する楽しさや、問題を解く楽しさを実感する児童が学習感想などを通して多くみられるようになった。 ・算数の問題を自分の考えだけでなく、友達の様々な考えに触れられるようにノートを持ち、室内を回り、友達に自分の考えを伝えたり、自分と違った考えを受容したりするなど対話的な活動を繰り返し行ったことにより、自分の考えをすすんで発表できる児童が７０％ほどになった。しかし、グループ内で友達の考えに頼りがちな児童も少なからず見かけるため、落ち着いて話し合いができるよう十分な時間を保証する必要を感じた。
４	国語	調・本校の正答率は７６．４％と、全国を６．４％、新宿区を４.２％上回っている。内容別にみると、８つのうち７つの正答率が全国、新宿区を上回り、観点別では「書く能力」「読む能力」の正答率が全国を大きく上回った。 学・学習に意欲的に取り組む児童が多いが、学習の定着に個人差がある。 ・「話すこと」は３年次に成長が見られたが、「聞くこと」はいまだに得意とは言えない児童もいる。	・「書くこと」に対して前向きに取り組める児童と苦手意識のある児童の二極化がやや気になる。消極的な児童ほど、仕上がりも拙い。 ・自分の考えをしっかりとノートやワークシートなどには書けるが、積極的に挙手し進んで発言しようとする児童は少しずつ減っている。 ・ローマ字を読んだり書いたりすることが苦手な児童が多い。	・ペア、小グループでの話し合いなど、話し合いの形態を変え、自分の考えを深めたり確かなものにしたりしながら自信をもたせ発言できるようにする。また、発言の話型なども必要に応じて示し、安心して発言できるように指導する。 ・生活の中にある身近なローマ字で表記されたものを多く読む経験を積ませる。また短時間学習などの時間に東京ベーシック・ドリルを活用し繰り返し練習する。 ・書く活動を日常的に取り入れる。良い書き方のモデルを示したり、語彙が増えるような授業をおこなったりして、書くことへの抵抗が減るようにする。	・日記を宿題にしたり、「漢字の広場」の書く活動を重点的に扱ったりすることで、書くことへの抵抗がある児童は減っている。年度当初から得意だった児童も少しずつ伸びている。 ・高学年に近づき照れもあるのか、挙手する児童は半年間で微減している。しかし挙手していない児童を指名すると、よどみなく答えられる場合が多い。自信をつけさせたい。 ・プログラミング学習でローマ字でのタイピングの機会が増えたため、ローマ字の習得は半年で進んだ。	・「課題を早々と仕上げるが文章の内容は薄い」児童や、「質の高い文章を書くものの時間がかかりすぎる」児童はいるが、「書くこと」自体への抵抗が年度当初ほどは見られなくなったという意味で、一定の伸びはあった。 ・国語に限らず、挙手する児童が少しずつ減っているため、挙手していない児童も意図的に指名するようにした。今後も理解度に応じた難易度の発問に抜き打ちで答えさせるとよいと考えられる。 ・後期は、前期以上にタブレットを使用する機会が多く、ローマ字のページを見ながらタイピングする児童は見られなくなり、自信をつけた。
	算数	調・本校の正答率は７９．８％と、全国を６．５％、新宿区を４.６％上回っている。内容別にみると、７つのうち６つの正答率が全国、新宿区を上回り、観点別では「算数への関心・意欲・態度」「数学的な考え方」の正答率が全国を大きく上回った。 学・学習に意欲的に取り組む児童が多いが、学習の定着に個人差がある。 ・かけ算の筆算などで、学んでから時間が経つとやり方を忘れてしまう児童がいる。 ・急いで問題を解く児童が多く、小さなミスが多い。また、見直しをしない児童も多い。	・問題の内容や、使われている用語も確認して課題に取り組むことが必要。 ・課題には意欲的に取り組むが、学習理解が高い児童ほど、ノートに整理して書いていくことができない児童がいる ・表やグラフ作成の手順は理解しているが、丁寧さに欠ける。	・「時刻」「時間」など間違えやすい用語について確認する。 ・定規の使い方や点の打ち方など、図形を描く際には細かい点にも気を付けるように指導し、ノートの使い方についても再度共通理解を図って整理して書けるように指導していく。 ・習熟度別学習ではどの児童も自力で解決できるような課題を提示し、自分なりに考えた図や言葉、式で表すことでわかったことを実感できる授業を組み立てる。 ・学習意欲の高い児童には、さらに工夫して意欲に応える課題を提示していく。	・和、差、積、商など算数用語が増えてきたので、学習の度に用語を確認して覚えていく。 ・学習意欲の高い児童には、自分の考えを図・式・言葉で表すだけでなく、２つ目、３つ目とさらに解く方法を考えていけるように指導していく。 ・学習の定着に差が出てきたため、算数のテストについてくるレコメンドシートや算数ドリルを丁寧に学習し、理解を進めていく。 ・個人で考える時間と集団で考える時間にめりはりをつけて、友達の考えから自分の考えを深められる話し合いを行っていく。	・学習に合わせた図を描く際に、数直線や表、グラフなどの算数用語が増えてきた。 ・自分の考えをノートにまとめる際には、様々な考え方を書こうとする児童の姿がみられた。また、友達の考えも意欲的にノートにまとめ、自分の考えに積極的に活用しようとする児童の姿もみられた。 ・学習の定着による差は４月当初と比べると大きくなった。ドリル等で丁寧に復習を行ってきたが、時間が経つと忘れてしまっている。引き続き、復習が必要である。 ・学習にはめりはりをつけて行えた。話し合いや友達同士の考え方の違いなど、気付く力もついてきた。

５	国語	調・どの領域においても目標値、区平均正答率を上回っている。特に物語の読み取り、説明文の読み取りはそれぞれ、１０ポイント以上上回っている。一方「書く」領域では目標値を上回っているものの他の領域に比べると数値は低くなっている。 学・学習に対して真面目に意欲的に取り組む。 ・読書が好きで、学年の読書目標である年間５０００ページの読書目標を多くの児童が達成した。 ・「書く」ことに対する意欲は個人差が多い。また苦手意識をもっている児童も多い。	・読書によって読み取る力がついていると考えられるが、読書の質に課題があったり、や読書を好まない児童も名いたりする。 ・詩や俳句、生活作文などに対しては比較的楽しんで書くことができる。一方、読書感想文や意見文等には苦手意識をもった児童が多い。	・読書力が説明文、物語文の読み取る力につながっているので、今後も読書の時間を確保していく。一方、読書の質も上げられるように国語の時間、朝読書等の時間を有効に活用し指導していく。 ・「書く」ことに関して身構えず、楽しんで書けるように指導する。 ・読書感想文や意見文などは、構成や書き出し、表現の仕方など「型」を提示し安心して書けるように指導していく。	・辞書を用いての漢字の学習が定着してきて、知識としての語彙が増えてきている。今後は、その語彙を文章の中でも生かしていけるように指導していく。 ・時間を設定しての「書く」という活動を通して、集中して書く力がついてきた。今後は、表現が豊かになるように、本や文章の中の表現を活用した「書く」という学習を行っていくようにする。	・学習や生活の振り返りを書く場面で、まだ習っていない漢字でも辞書を使って調べたり、先生に聞いたりして書く様子が見られた。 ・文章の型や表現の工夫について、文章中から読み取る活動を通して、表現や意味の通る文章を書くことができるようになってきた。しかし、文末表現がうまくできず、まとまった文章にならないなどの課題も見られたので、今後は文章のまとまりを意識して書くよう指導していくようにする。
	算数	調・本校の正答率は８１．２％と、新宿区を７．７％上回っている。観点・領域別にみると、７つの観点・領域全ての正答率が全国、新宿区を上回っている。特に「数学的な考え方」の正答率が１２．４％と全国を大きく上回った。 学・学習に意欲的に取り組む児童が多いが、学習の定着に個人差がある。 ・図形の領域、特に「平行と垂直」「平行四辺形、ひし形」の学習は、興味をもって取り組めたものの、時間が経つと作図の方法や角の関係を忘れてしまう児童がいる。 ・学習内容を理解してはいるが、小さなミスも多い。また、作図などでの丁寧さが足りない児童が目立つ。	・算数の基礎基本は、ほとんどの児童が習得しているが、学年相応の学習内容を習得していない児童もおり、個人差が大きい。 ・算数のノートを丁寧に書くことができるが、自分なりの工夫や思考を深めるようなノートの活用ができていない。 ・問題解決的な問題に関心をもち、意欲的に取り組むことができる。	・学習の定着が難しい児童については、東京ベーシック・ドリル等を活用し、個別に対応する。 ・習熟度別学習ではどの児童も自力で解決できるような課題を提示し、分かったことを実感できる授業を組み立てる。また、見通しをもって課題に取り組めるように、板書や視覚で捉えられる表示などを工夫する。ノート指導も丁寧に行っていく ・問題解決型の授業を取り入れ、児童の意欲を高める。 ・グループでの話し合いや発表の活動を多く取り入れ、思考力と共に表現力を高めさせていく。	・算数のテストについてくるレコメンドシートを毎回きちんと復習することを徹底させたことにより、応用問題を読み取る力が付いてきているので、引き続き取り組ませていく。 ・自力解決が難しい児童については、習熟度別の少人数のグループでゆっくり丁寧に指導することで、基礎・基本の理解を深めることができた。 ・習熟度別で人数が多い学級では、グループの話し合いや発表の場を多く取り入れたことで、深く考える力や表現力が付いてきているので、さらに伸ばしていく。	・応用問題に取り組む意欲は高まり、授業の中でも発展問題を提示することで学習意欲は高まった。今後も授業の中で応用問題に取り組む時間を設定し、グループで解決していくなど主体的で対話的な学習を行っていく。 ・習熟度別のグループで指導することで、基礎・基本を丁寧に指導することはできたが、自力解決が難しい児童にとっては、クラスが変わらずモチベーションが上がらない様子も見られた。習熟度別グループの中で、できるようになったという実感をもてるような工夫を意識して授業を行うようにする。
６	国語	調・本校の正答率は７５．２％と、全国を３．２％、新宿区を０.５％上回っている。観点・領域別にみると、６つの観点・領域全ての正答率が全国、新宿区を上回り、特に、「読む能力」および「読むこと」の正答率が全国を大きく上回った。 学・学習に対して、意欲の差があり、そのことから学習の定着にも個人差がある。 ・「話すこと」は前年度より、正答率も上がったが、「聞くこと」は得意とは言えない児童もいる。 ・問題文に対して、理解に差がある。また、問題文に対しての答えに小さなミスが多い。また、見直しをしない児童も多い。	・段階的に指導し、決められた手順で答えを出していくことは得意だが、大枠を捉え、自分で考えながら、解いていくことが苦手である。 ・書く力に関しては、個人差が大きい。作文を苦手としている児童も多く、継続的な指導が必要となる。 ・漢字に関しては、文章の中で書くなど活用に関して、課題がある。	・問題解決として、課題を捉え、児童が思考する場面を授業の中で意識して増やしていく。 ・継続的に作文を指導していく。短作文や行事作文、日記など多様な形式で書かせ、自分の思いを表現することを意識させる。 。・漢字では小テストを活用する。繰り返し、取り組むことで、課題意識をもって練習できるようにする。行事作文などの活動を通して、児童が自ら書く意識を育てる。また、作文の中でも漢字を意識的に使うように指導する。	・思考する場面を授業内で増やした。今後も増やしていく。 ・作文は継続的に指導した。報告書・意見文等、自分の考えを書く際は、根拠となる理由を明確にするように繰り返し指導した。また、事実と意見を明確に意識して書くように指導している。 ・50 問テストや小テストを活用し、児童が正しく漢字を書くことを意識して、学習できるようにした。作文や新聞、報告書等で、意識的に漢字を使えるように指導している。 ・文章を読む学習活動では、作者や筆者の目的を意識して読むことを繰り返し指導していく。	・思考する場面を授業内で増やしたことで、課題を自分のこととして捉える児童が増えた。 ・作文に関しては、根拠となる理由を明確にするよう繰り返し指導したことで児童の身に付いてきた。 ・作文や新聞等の言語活動で、児童は意識的に漢字を使えるようになった。作者や筆者の目的を意識して、文章を読める児童が増えた。
	算数	調・本校の正答率は６４％と、新宿区を１.７％下回っている。観点・領域別にみると、７つの観点・領域全ての正答率が新宿区を下回りっている。「算数への関心・意欲・態度」「数学的な考え方」の正答率が全国を大きく上回った。 学・学習に意欲的に取り組む児童が多いが、学習の定着に個人差がある。 ・図形の領域、特に「合同」では、丁寧に取り組んではいても、時間が経つとやり方を忘れてしまう児童がいる。 ・図形を作図する際には、用具の操作に時間がかかる児童が多い	・理解度に関して、個人差が大きい。特に数から図に具体的にイメージすることが難しい児童がいる。 ・公式を覚えているのだが、公式の意味や内容を理解し、活用できる児童が少ない。 ・図形に関しても個人差が大きい。 問題文から具体的に図形をイメージすることも苦手である。	・授業内では、公式を教えるだけではなく、なぜ公式で問題が解けるのか、説明できるように指導する。また、式と図、図と言葉など、複数の方法で説明できるように指導する。 ・算数への抵抗感が減るように、スモールステップの指導を行う。 ・図形に関しては、作図の時間を重点的にとり、体験的に理解させるように指導していく。	・図・式・言葉を用いて、自分の思考の流れを振り返ることができるノートの書き方を繰り返し指導していく。今後も、図や数直線を用いて考えをまとめるノート指導を重点的に指導していく。 ・少人数指導を展開する中で、一人一人の児童の実態に沿った課題を用意し、個別の指導改善を図っている。基礎的・基本的な学習内容の定着状況を分析するとともに、児童の実態に合わせた発展的な学習内容も用意し、学力の定着を図る。	・図や数直線を活用して、自らの考えをノートにまとめられる児童が増えた。 ・個別に児童の実態に合わせた指導をすることで、学習の定着を図ることができた。 ・図形に関しては、体験的に理解するような作図の時間を重点的にとることで、具体的に図形をイメージできる児童が増えた。 ・公式に関しては、意味を友達に説明するなど活用する場面を増やしたことで、公式に対する理解度が深まった児童が増えた。
音楽	学 全体的に音楽の学習に意欲的な児童が多く、すすんで表現や鑑賞の学習に取り組もうとしている。		・音楽活動を楽しんでいる児童が多い一方、自己肯定感が低く、のびのびと表現をしたり自分の考えを発表したりすることに消極的な児童も見られる。	・努力の様子や前回よりものびたところを教師が認めてほめたり、ペアやグループなどの活動を取り入れたりして、児童が互いのよさを認め伝え合う活動を意図的に設定する。	・題材のねらいや発達段階に応じてペアや少人数でのグループ活動を設定したり発表の機会を設けたりして、児童が互いのよさを認め合う時間を増やしている。	・グループや個の発表を聴き合い認め合う活動を継続的に行ってきたこと、音楽会で大勢の前で発表した経験等を通して、児童が自信をもって音楽活動を楽しむ姿がより多く見られるようになった。

図工	学 どの学年も材料に積極的に関わり進んで活動し、自分なりの表現を試し発想しようとする意欲的な児童が多い。	・自分の表現への肯定感が低く、自分の思いに合わせて画材や素材や表現方法を選んで効果的に表す力がやや弱い部分が課題である。	・自分の表現のよさや他者の表現のよさに気付き、自信を持てるように言語化して伝える活動を多く設定する。 ・画材や素材や表現方法を発達段階に応じて豊富に用意し、自分の思いに合わせて選択できる活動を設定し思考力、判断力、表現力を高める。	・児童が相互に表現を認め合い、良さを伝える活動を意図的に増やしている。 ・高学年では、自分の表現したいことに合わせ、材料や表現方法を選択できる児童が増えている。	・自他の表現のよさを認め合う活動を継続することで、自分の表現に自信をもって活動する姿が目立つようになった。 ・表現方法に応じて画材や素材を選ぶ体験を増やすことで、高学年は主体的に表現する姿が見られるようになった。
特支					

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況　学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況　※分量は 2 ページ以上となってもよい。